

ハイテク、出荷増勢と良い在庫増余力を示す 鉱工業生産、米株 SOX「4 カ月前比株高」持続性を支援

2026/8/10 (月)

ハイテクの業況は AI 関連を中心に上振れ過熱が警戒されているが、国内の最新統計では出荷の増勢と、良い在庫増の余力残存が示された。経済産業省の鉱工業生産によると、ハイテクに関係する電子部品・デバイス工業は直近 6 月に出荷の前年比プラス軌道堅持や、川下の最新需要が反映される出荷の生産比上振れ、在庫の前向きな増加余地が確認されている。米国の代表的なハイテク株指数であるフィラデルフィア半導体株指数 (SOX) は 6 月から調整反落となっているが、14 カ月続く「4 カ月前比での株高」トレンドは継続が支援されやすい。

AI ハイテク株は過熱警戒下落、2 番天井試し焦点

「世界のシリコンウエハー（半導体の基板）出荷面積は、今年 4-6 月期も前年比+7.4%増と堅調な成長を維持した」、「これは先進ロジックやメモリー分野にとどまらず、パワーデバイス、フォトニクス、その他の市場へと広がる AI 関連需要の力強い拡大によるもの」、「加えて産業・車載向け需要が回復しつつある一方、メモリー価格の上昇圧力で PC やスマートフォンの需要が抑制されている」、「対応する形で世界のメーカー各社は生産能力拡大に積極的な投資を進めるなど、シリコンウエハー需要の成長は今後も継続すると見込まれる」――。

SEMI（国際半導体製造装置材料協会）は 7 月末、このような最新データ分析を示した。

米日の株式市場では AI を中心としたハイテク関連株に高値過熱の警戒感が高まり、6 月からは調整反落が見られている。それでも AI 革命を中心としたビッグバン的な需要余地を踏まえると、関連株は価格面やスピード面での調整局面を挟みつつも、一旦の下げ止まりと「2 番天井トライ」が注目されそうだ。

日本の経済産業省による最新 6 月の鉱工業生産では、ハイテクに関係する電子部品・デバイス工業について、出荷の増勢と、良い在庫増の余力残存といった好環境が示された。米国の代表的なハイテク株指数であるフィラデルフィア半導体株指数 (SOX) は 6 月から調整反落となっているが、こうした好環境の局面では 14 カ月続く「4 カ月前比での株高」トレンドは継続が支援されやすい。

具体的に SOX は 6 月からの調整反落でも、7 月の高値は 4 カ月前である 3 月の高値を上回っている。現在の電子部品・デバイス工業は 12 カ月移動平均といったトレンドベースで、出荷指数の前年比プラス基調、出荷前年比ー生産前年比の格差での出荷上振れ（川下の最新需要が反映される出荷に勢い）、在庫

指数の低下一服と底入れ上昇の初期段階といった好環境が観測されている。

過去こうした好環境の際、米株 SOX は月間高値のみならず、月間安値、月末値の各ベースで「4 カ月前比」プラスのトレンドが連動観測されてきた。その点で目先の SOX は、4 カ月前比での上振れ持続が焦点となる。最近の SOX は直近安値が 7 月 29 日の 10455、8 月 6 日の終値が 12048 となっている。

現在の 8 月の場合、4 カ月前は 4 月となる。8 月相場での参考メドとなる 4 月は月間高値が 10564、安値が 7505、月末値が 10503 となっていた。8 月は各ベースで、月末値にかけて「4 月比」上振れ推移が注目されやすい。

月間 SOX 高値・安値・月末値、4 カ月前比プラス

同様に 9 月の場合、4 カ月前は 5 月となる。9 月時点での参考メドとなる 5 月時の水準は、月間高値が 13115、安値が 10364、月末値が 12829 となっていた。先行き 10 月の場合、4 カ月前は 6 月となる。10 月時に参考メドとなる 6 月は月間高値が 14655、安値が 11794、月末値が 14246 と高め水準になっていた。

米国では 9 月にかけて FRB による利上げ観測がくすぶっており、現実に利上げ確率が高まると「4 カ月前比での株高」トレンドは短期的に崩れるリスクもある。

一方で日本の 6 月鉱工業生産では電子部品・デバイス工業について、出荷部門の生産比上振れ増勢が示された。出荷は製品の買い手側の購入・予約発注などが反映されるもので、最新の需要動向が示されやすい。出荷が増加となれば、追従対応の形で生産は増加へと伝播。同時に出荷が増加となれば、在庫は軽減化される好循環を生んでいく。

その点で現在のような出荷の上振れ増加は、「良い生産増と良い在庫減」の先行指標となるもので、過去実績に沿えば関連株の上昇が支援されやすい。

具体的に季節調整済みベースで 6 月の電子部品・デバイス工業の出荷指数は前年比+7.1%のプラス、生産指数は-2.1%のマイナスとなった。「出荷ー生産」の前年比格差は、+9.1%の出荷上振れとなっている。2022 年 8 月以来、約 4 年ぶりの大幅プラスという出荷増の勢いが示されている。

その他、最新 6 月には在庫指数（2020 年=100）が、トレンドを示す 12 カ月移動平均ベースで 75.1 となった。4 月の 74.9 が最低ボトムとなる形で、2023 年 7 月の 117.4 を最高ピークとした約 3 年に及ぶ在庫減と在庫不足のトレンドが一服となっている。

過去、米株 SOX との関係でいえば、良い在庫減か

らの底入れと、前向きな在庫投資の増加、在庫増と裏表の良い生産増の環境では株高トレンドが連動支援されてきた。その後、在庫の増加が需要減退や過剰在庫などによる「悪い在庫増」のフェーズに移行してくる前後で、SOXは株高天井の形成から反落へと転じている。

その点で現状は、在庫の軽減化と良い在庫増の残存余力を示す「良い在庫増方向」の初期段階になる。先行きSOXなどのハイテク関連株は、価格調整による株安余地や日柄調整によるレンジ横這い化を見据えながらも、再上昇の余地残存が注目されやすい。

なお、最近の在庫指数・12カ月移動平均での低下局面からの下限ボトム形成（良い在庫減）と、SOXの天井高値ピーク形成までの日柄実績は以下の通りとなっている。現在の在庫指数・12カ月移動平均は4月で低下局面が底入れとなり、足元の8月は「4

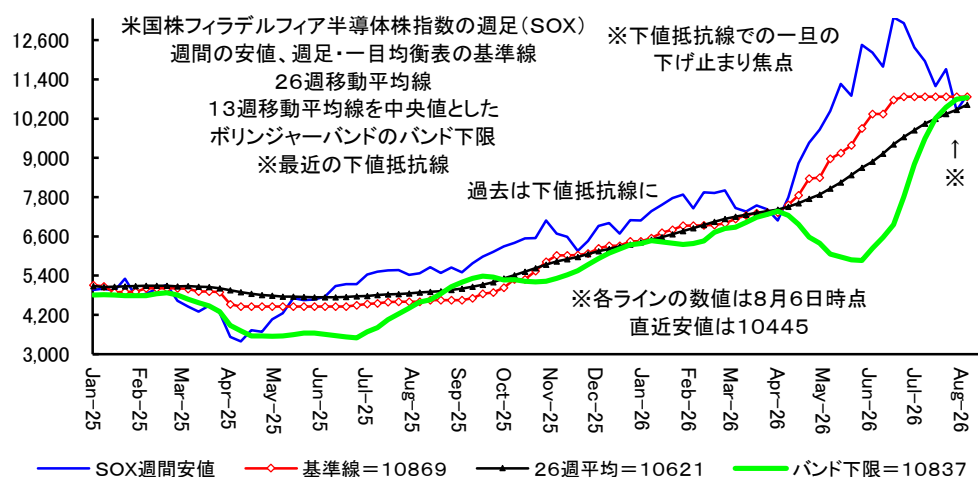
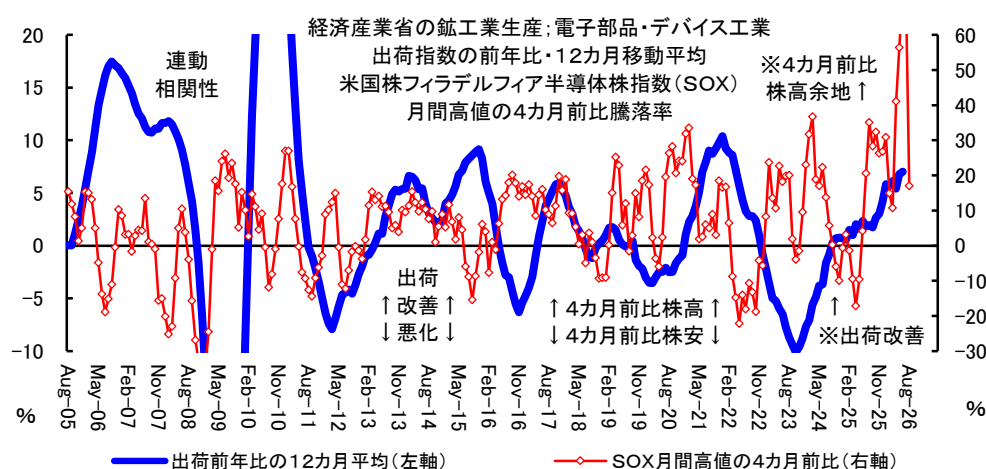
カ月後」の段階にある。

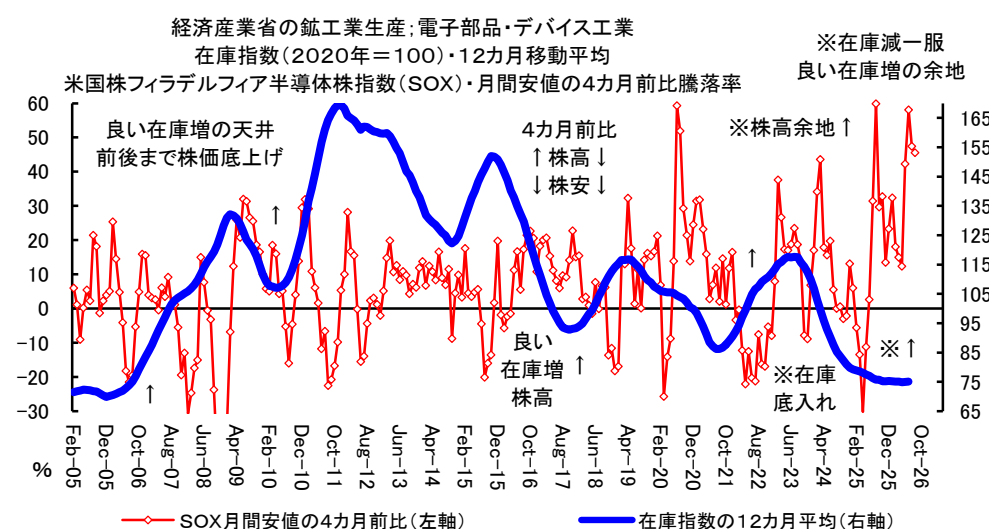
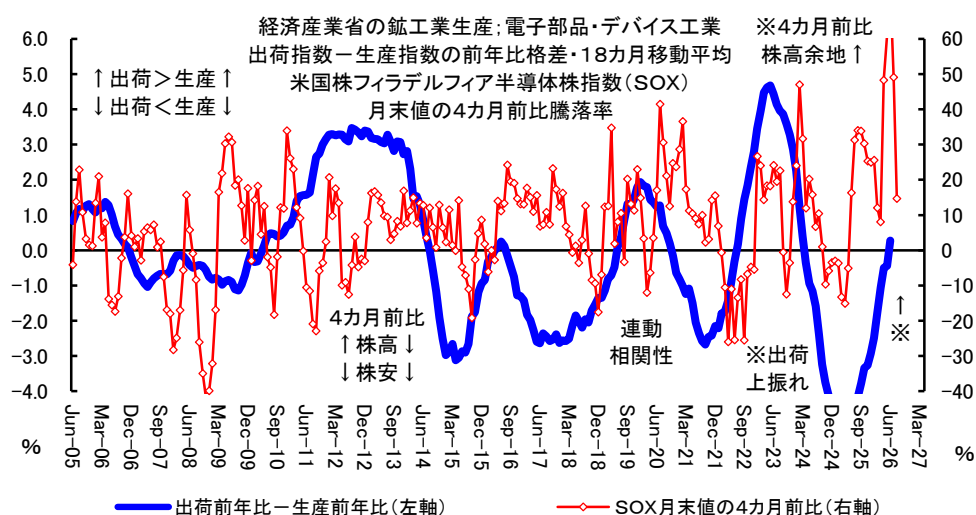
■ 2021年8月に在庫指数の12カ月移動平均は下限ボトムを形成（良い在庫減のクライマックス）＝SOXの月間高値は同月の高値比で、「5月後」となる2022年1月に+17.0%まで上昇。同月で天井高値ピークを形成（以下同）。

■ 2017年10月に在庫12カ月平均が下限ボトム＝SOXは「18カ月後」に+25.4%まで上昇し、天井高値を形成。

■ 2014年10月に在庫12カ月平均が下限ボトム＝SOXは「8カ月後」に+16.7%まで上昇し、天井高値を形成。

■ 2010年4月に在庫12カ月平均が下限ボトム＝SOXは「11カ月後」に+15.2%まで上昇し、天井高値を形成。





お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。